

お知らせ Information

長久保赤水顕彰会

『改正日本輿地路程全図』原寸大レプリカの発行について

江戸時代の庶民が使っていた日本地図は、伊能忠敬(1745～1818)の『伊能図』ではなく、長久保赤水(1717～1801)が作った『赤水図』だったことは、殆ど知られていません。

『伊能図』は江戸幕府の秘図で、明治初年まで庶民の目に触れることはありませんでした。あの有名な吉田松陰もこの『赤水図』を絶賛し、伊能忠敬が測量に携帯していたのも、実はこの『赤水図』だったのです。まさに、明治維新のエネルギーの起爆剤的な役割を果たした地図こそ、この長久保赤水が作った『赤水図』だったのです。

長久保赤水顕彰会では、江戸時代後期の約100年間のロングベストセラーだった『赤水図』を、令和元年の記念品として、5月1日付で『改正日本輿地路程全図』原寸大レプリカ(複製図：84.6×128.8cm)を発行しました。赤水生存中の集成ともいえる寛政3年(1791)発刊の第2版です。このたび、寛政3年の販売当時の袋(のし・レプリカ)に同封して、1,000円で販売中です。

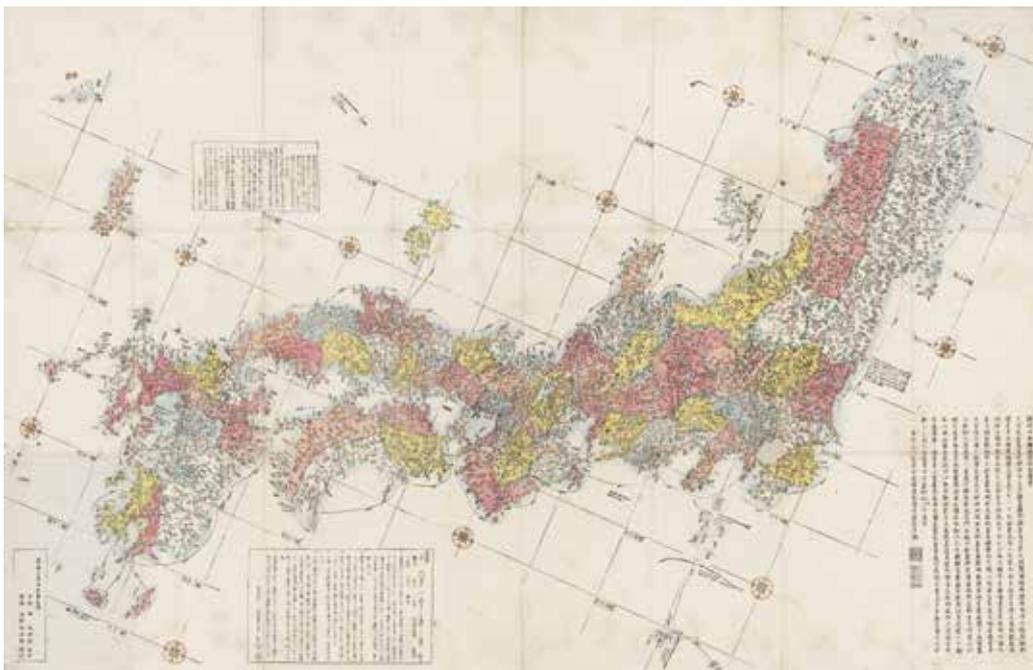
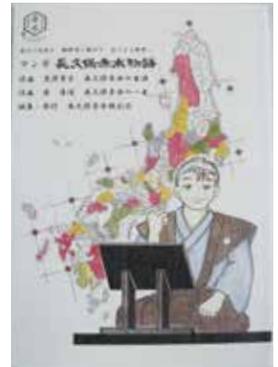
実は、約6,000もの地名が掲載されている『赤水図』は、すでに鎖国の江戸時代に海を渡り、ヨーロッパやロシアなどで、日本国の基本図として利用され、発行されていたのです。クルーゼンシュテルン、クラブロート、アロースミスなどの日本図にも利用されていました。またシーボルトコレクションなど世界6カ国で44枚の赤水図が確認されています。

江戸時代にベストセラーの日本地図を作った長久保赤水の業績を漫画で紹介する『マンガ長久保赤水物語』も、現在、好評発売中です。若い人たちや子供たちが関心を持つきっかけになればと期待しています。高萩市の主婦、黒澤貴子さん(52)作の「長久保赤水の生涯」と日立市の会社員、原康隆さん(45)の「長久保赤水の一生」の2本が単行本に収録されています。赤水に関する写真や資料、年表なども掲載しています。B6判、274ページで500円です。

- 制作発行者 長久保赤水顕彰会
- 問合せ先 長久保赤水顕彰会事務局
〒318-0103 高萩市大能341 佐川春久
携 帯：090-1846-6849
Eメール：haruhisasagawa@yahoo.co.jp
<http://nagakubosekisui.org/>



- (右)『マンガ 長久保赤水物語』
- (中)寛政3年の販売当時の袋(のし・レプリカ)
- (下)長久保赤水顕彰会のロゴマーク



NAGAKUBO SEKISUI
KENSHOKAI